

# 武蔵小杉周辺 景観計画特定地区



## 景観形成方針・基準

川崎市



KAWASAKI CITY

川崎市

まちづくり局 計画部

景観・地区まちづくり支援担当

〒210-8577  
川崎市川崎区宮本町1番地  
TEL : 044-200-3022  
FAX : 044-200-3969  
E-mail : 50keikan@city.kawasaki.jp



## はじめに

武蔵小杉駅周辺地区では、民間事業者による再開発事業の機運が高まってきたことから、平成17年3月に策定した新総合計画の中で、小杉駅周辺地区を「民間活力を活かした魅力ある広域拠点の形成を図る地区」として位置づけ、2005（平成17）年度に当該地区を都市景観形成地区に指定し、景観形成方針を策定しました。

その後の景観形成基準の策定にあたっては、武蔵小杉駅周辺をまとまりある空間として捉え、武蔵小杉駅周辺全体のまちづくりの方向性を示している「小杉駅周辺地区将来構想（2007（平成19）年度策定）」や、都市計画法に基づく都市計画マスタープランである「小杉駅周辺まちづくり推進地域構想（2008（平成20）年度策定）」をベースに、全体コンセプト及び地区の景観形成基準案を、各事業者等の関係者に提示・協議を行い、事業進捗に合わせながら、順次、景観形成基準を策定してきました。

並行して、景観法の2004（平成16）年度の施行を受け、本誌においては2007（平成19）年度に川崎市景観計画を策定、2008（平成20）年度から施行しています。景観計画の中では、新たに景観計画特定地区という制度を創設し、市の新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」における都市拠点を、面的整備の機運の高まりや事業の進捗に合わせ景観計画特定地区を指定することとしました。そのため、従前の武蔵小杉周辺都市景観形成地区を隣接区域における大規模開発を契機とし、2013（平成25）年度に、武蔵小杉周辺地区を都市景観形成地区から景観計画特定地区へ移行しました。

このパンフレットは、市民、事業者、行政が共有できるような景観づくりの考え方や建築物、工作物、公共施設等の具体的なデザインの基準の定められているとともに、その前提となる都市を貫く主要な軸道や交通の各周辺におけるデザインの考え方が記されています。

これにより、当地区における良好な景観の形成について御理解いただければと思います。

平成26年4月

## 目次

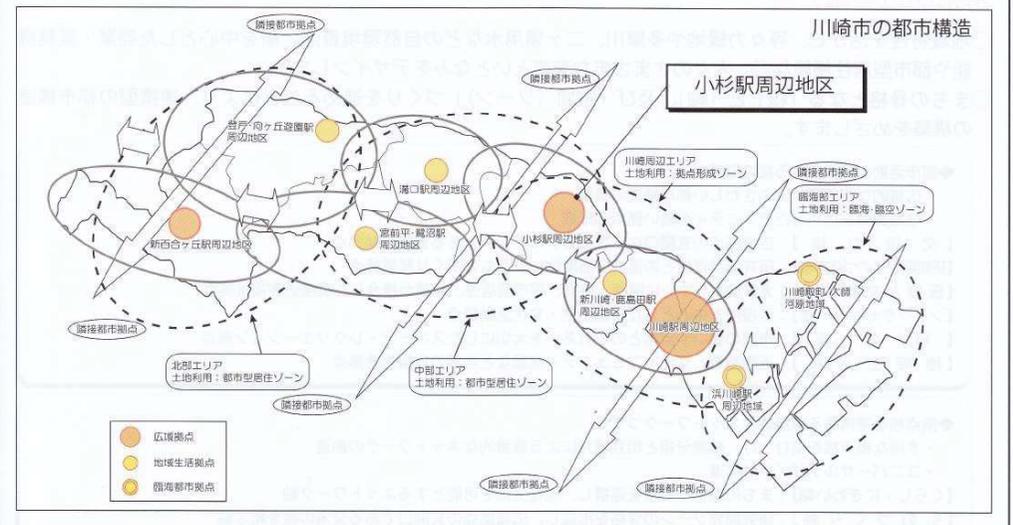
01	はじめに	
02	武蔵小杉周辺地区の位置づけ・まちづくりの基本コンセプト	
03~04	まちづくりの基本方針	
	まちづくりの基本方針・将来都市整備方針	03
	小杉駅周辺地区の将来都市構想図	04
05~18	景観形成方針	
	武蔵小杉周辺の景観構造	05-06
	「ものづくりの軸」の景観形成方針	07-08
	「くらしの軸」の景観形成方針	09-10
	「商業・賑わいの軸」の景観形成方針	11-12
	「シビック軸」の景観形成方針	13-14
	「医療と文教の軸」の景観形成方針	15-16
	「交流の核」の景観形成方針	17-18
19~54	各地区の景観形成の基準（行為の制限）	
	武蔵小杉周辺景観計画特定地区の区域	19-20
	「研究開発・ものづくり地区」の景観形成の基準	21-22
	「中丸子地区」の景観形成の基準	23-24
	「武蔵小杉駅横須賀線口北地区・南地区」の景観形成の基準	25-28
	「グランド地区」の景観形成の基準	29-32
	「武蔵小杉駅南口駅前地区」の景観形成の基準	33-42
	「新丸子東3丁目北部地区」「中丸子東部地区」「小杉町3丁目中央地区」「新丸子東3丁目南部地区」の景観形成の基準	43-54
55~60	届出等について	
	屋外広告物の定義	55
	建築物又は工作物の形態意匠の制限についての適用除外	56
	屋外広告物に関する基準の適用除外	56
	届出等の手続きについて	57
	基準策定の経緯	58
	用語解説	59-60

## 小杉駅周辺地区の位置づけ

- 川崎市は「広域調和・地域連携型」の都市構造をめざしており、小杉駅周辺地区は川崎駅周辺地区、新百合ヶ丘駅周辺地区に並ぶ「広域拠点」として位置づけられます。
- 東京や横浜との近接性など立地特性を活かしながら、他の都市拠点との適切な機能分担を行い、民間活力を中心としたまちづくりの推進により、個性と魅力にあふれた広域的な拠点を形成します。

### ◆広域拠点としての役割

- 玄関口としての役割 — 中原区の交流拠点としての顔づくり  
交通ターミナルとしての利便性の確保
- 都市拠点としての役割 — 都市機能の集積による広域的な拠点の形成  
生活を支える拠点づくり  
交通ネットワークづくり



## まちづくりの基本コンセプト

「交流」と「にぎわい」があふれるヒューマンなまちづくり

- 「歩いて楽しいまち」
  - ・人の活動が見えるまち
  - ・地元のまちとの連続性確保
  - ・沿道型の商業空間
- 「環境共生型のまち」
  - ・緑豊かな環境の実現
  - ・環境負荷の軽減
  - ・周辺自然的環境との調和
- 「豊かに暮らせるまち」
  - ・多様な市民生活の実現
  - ・新旧住民相互の融合
  - ・エリアマネジメントの推進

まちづくりの基本方針

【特色ある拠点相互の連携による魅力あふれる広域拠点づくり】

- ・多様な核の集積とネットワーク化による魅力ある市街地形成
- ・既存市街地との連続性を確保するヒューマンなにぎわい空間の創出
- ・周辺市街地環境と協調した市街地形成と新しいにぎわい空間の創出

【小杉地域の特性を活かした持続可能なまちづくり】

- ・充実した鉄道網を活かした歩いて暮らせるまちづくり
- ・駅を中心とした多様な都市機能のコンパクトな集積
- ・小杉地域の特性を踏まえた交通施策の推進

【周辺環境資源との連携による広がりある都市空間づくり】

- ・等々力緑地や多摩川、二ヶ領用水とのネットワーク化によるアメニティの高い都市空間の形成
- ・緑豊かなパブリックスペースの実現
- ・環境と共生した開発計画、安全・安心のまちづくりの推進

【協働のまちづくり】

- ・市民主体のまちづくり活動支援
- ・市民、NPO、事業者などとの協働によるエリアマネジメントの推進
- ・地区計画等の活用による官民協働のまちづくり

将来都市整備方針

- 地域特性を活かし、等々力緑地や多摩川、二ヶ領用水などの自然環境資源と駅を中心とした商業・業務機能や都市型居住機能など、人々のさまざまな交流といとみみをデザインします。
- まちの骨格となる「核」と「軸」、及び「空間（ゾーン）」づくりを進めることにより、連携型の都市構造の構築をめざします。

◆都市活動の拠点となる核の形成

- ・広域的な都市拠点にふさわしい都市機能の集積
- ・地域資源を活用したアメニティの高い拠点の形成

【交流の核】：広域拠点の玄関口にふさわしいにぎわいのある都市活動拠点

【研究開発とものづくりの核】：研究開発機能との連携・高度化によるものづくり産業拠点

【医療と文教の核】：大学病院を中心に医療、教育、都市型居住、商業が複合した高度医療福祉拠点

【シビックセンター核】：区役所を中心とした市民生活・文化活動拠点

【緑の核】：市民の憩いや自然とのふれあいを大切にしたスポーツ・レクリエーション拠点

【地域生活核】：近隣商業、文化・コミュニティ施設など地域の日常生活拠点

◆拠点核を連携する重層的なネットワークづくり

- ・多様な拠点核を結びつけ、機能分担と相互補完による重層的なネットワークの創出
- ・ユニバーサルデザインの推進

【くらし・にぎわい軸】：まちの顔となる核を連携し、地域交流を可能とするネットワーク軸

【ものづくり軸】：研究開発ゾーンの骨格を形成し、広域拠点の玄関口である交流の核を結ぶ軸

【商業・にぎわい軸】：商業機能や交流機能の集積によるうおいと回遊性のある賑わい軸

【生活軸】：地域生活核や交流の核を結び、地域生活の骨格となる軸

【緑地軸】：等々力緑地、多摩川、二ヶ領用水など、水と緑の拠点をつなぐ軸

【歴史文化軸】：中原街道を中心とした歴史と文化にふれる軸

◆駅を中心に都市機能が複合化した市街地の形成

- ・駅を中心に多機能がコンパクトに集積する市街地の形成
- ・商業・業務、研究開発、居住機能の複合化

【複合的利用ゾーン】：広域的な拠点性の高い商業・業務、サービス、文化、交流、医療・福祉、居住機能が複合した市街地

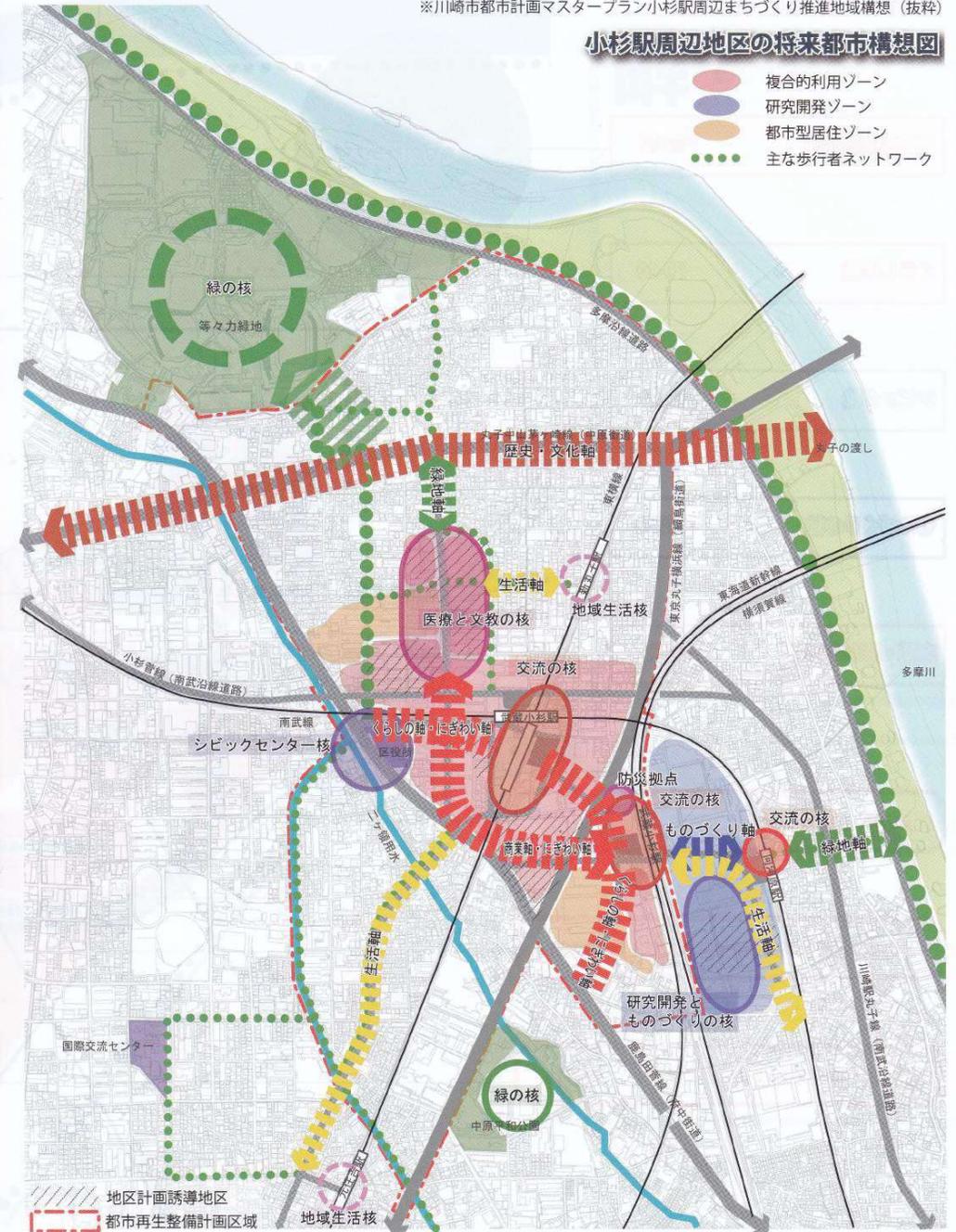
【研究開発ゾーン】：研究・開発拠点として特化し、先端技術産業の高度化と研究機関機能の更なる集積を図る地区

【都市型居住ゾーン】：優良な都市型住宅と生活サービス、地域交流機能などが立地する地区

※川崎市都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想（抜粋）

小杉駅周辺地区の将来都市構想図

- 複合的利用ゾーン
- 研究開発ゾーン
- 都市型居住ゾーン
- 主な歩行者ネットワーク



武蔵小杉周辺の景観構造

軸

医療と文教の軸 P15-16

くらしの軸 P9-10

シビック軸 P13-14

ものづくりの軸 P7-8

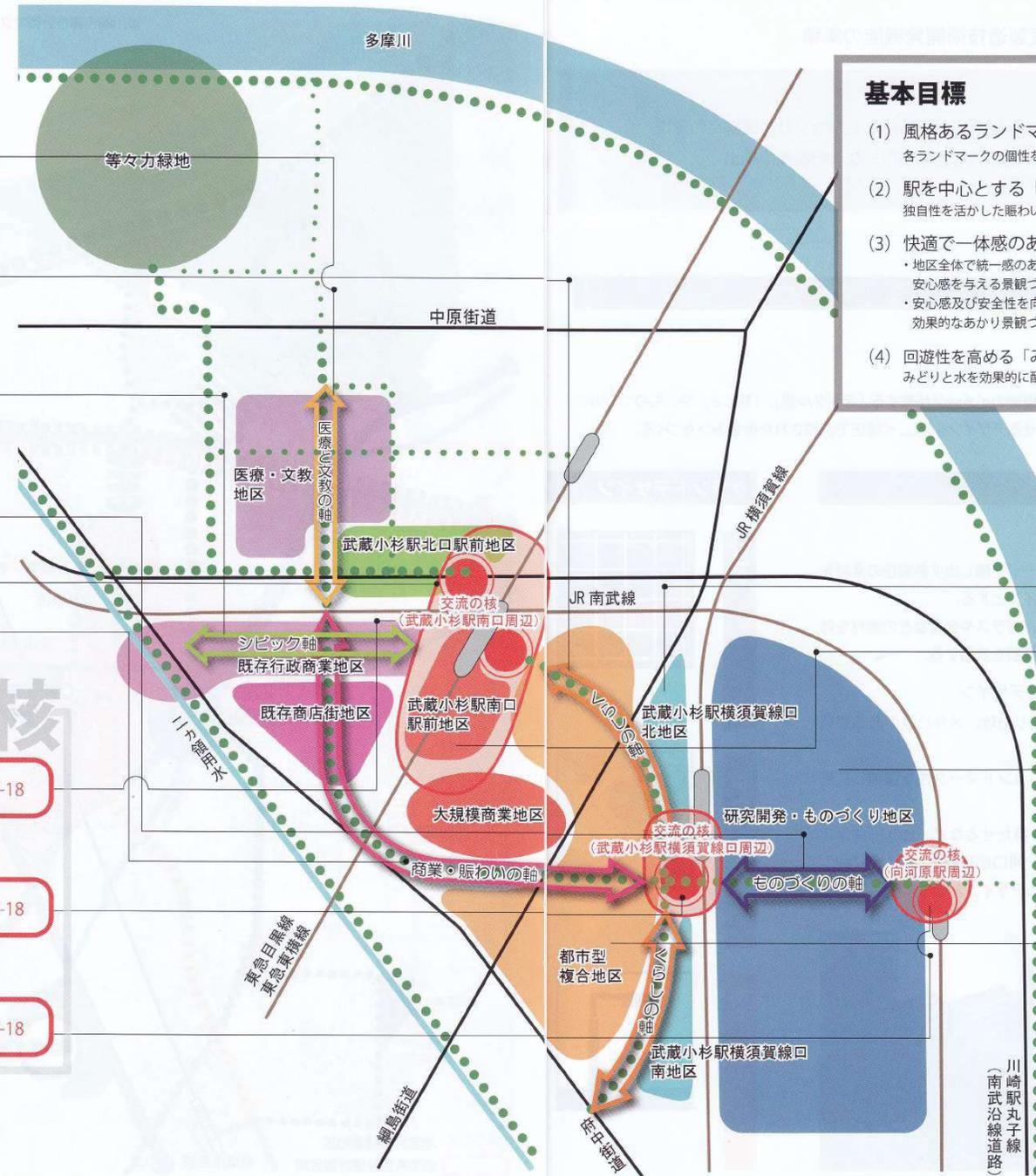
商業・賑わいの軸 P11-12

核

交流の核（武蔵小杉駅南口周辺） P17-18

交流の核（武蔵小杉駅横須賀線口周辺） P17-18

交流の核（向河原駅周辺） P17-18



基本目標

- (1) 風格あるランドマークによる「拠点景観づくり」  
各ランドマークの個性を活かしつつ、地区全体でまとまりを感じる建築景観づくりを行う。
- (2) 駅を中心とする「賑わい景観づくり」  
独自性を活かした賑わいの演出を図りつつ、秩序ある商業景観づくりを行う。
- (3) 快適で一体感のある公共的空間をめざす「沿道景観づくり」  
・地区全体で統一感のあるサインやストリートファニチャー等を効果的に配置し、快適さと安心感を与える景観づくりを行う。  
・安心感及び安全性を向上させるとともに、夜間の街を演出する、街区の特性に合わせた効果的なあかり景観づくりを行う。
- (4) 回遊性を高める「みどりと水の景観づくり」  
みどりと水を効果的に配置し、連続感ある潤いと彩りの景観づくりを行う。

地区

武蔵小杉駅横須賀線口北地区・南地区	P25-28
武蔵小杉駅南口駅前地区	P33-42
研究開発・ものづくり地区	P21-22
都市型複合地区	
中丸子地区	P23-24
グランド地区	P29-32
新丸子東3丁目北部地区	P43-54
中丸子東部地区	P43-54
大規模商業地区	
新丸子東3丁目南部地区	P43-54
既存行政商業地区	
小杉町3丁目中央地区	P43-54

目指すべき土地利用： 研究開発機能と高度製造技術開発機能の集積

空間構成の考え方

- 開放的で洗練された環境の中に機能的かつ象徴的に配置された新たなものづくり産業拠点の形成
- 武蔵小杉駅横須賀口と向河原駅口周辺の2つの交流の核を結ぶ都市的な歩行者軸の創出
- 研究者や市民の憩いの場となる広場空間の創出

デザインの考え方

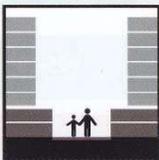
デザインのキーワード

<端正で洗練された街並み>

— デジタル感・新しさ・軽快感 —

『ものづくりの軸』にかかるゾーンは、先端研究開発機能のイメージが有する「デジタル感」、「新しさ」や、ものづくりに必要な豊かな創造力がもたらす「軽快感」を想起させるデザインを施し、<端正で洗練された街並み>をつくる。

建築デザイン



●端正で洗練されたデザイン

- ・高層部は明るく洗練されたイメージを醸し出す無彩色の素材を中心に用い、軽快感のあるデザインとする。
- ・低層部は無彩色の素材を中心に、ガラスや金属などの素材を効果的に用い、端正なアイレベル景観を演出する。

●高層部と低層部を切り分けたデザイン

- ・高層部と低層部のデザインを切り分け、メリハリのある建築物デザインとする。
- ・高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した風格あるデザインとする。
- ・低層部は、ファサードに変化を持たせるなど、ヒューマンスケールな設えとともに、開口部を大きく設けるなど、内部の活動を感じることでできるデザインとなるよう配慮する。



ランドデザイン

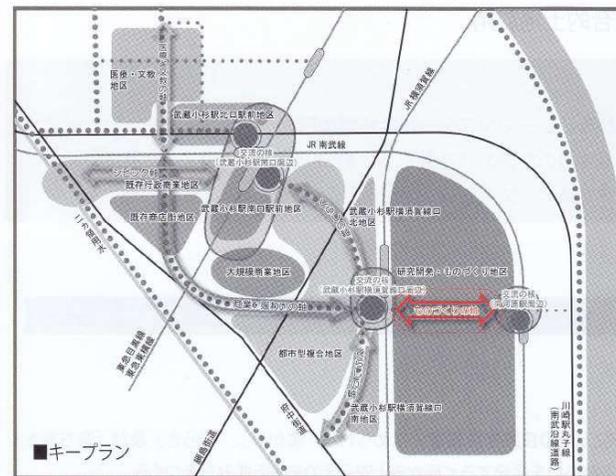
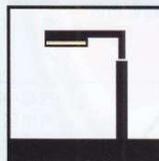
舗装



植栽



照明



【関連する交流の核及び地区】

- ・交流の核 (武蔵小杉駅南口周辺) →P17-18
- ・交流の核 (向河原駅周辺) →P17-18
- ・研究開発・ものづくり地区 →P21-22

●モノトーンの落ち着いたデザイン

- ・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、モノトーンカラーの舗装材を、ボーダー状やドット状に敷設するなど、規則的かつ直線的に用い、ハイテク感を演出するとともに、落ち着いた雰囲気演出する。



●幾何学的な緑のデザイン

- ・通り空間の植栽は幾何学的な配置とし、交流の核間を結ぶ歩行者軸の連続性を強調し、沿道景観としての一体感を持たせる。
- ・敷地内の空地等の植栽、樹木を規則的に配置し、幾何学的なデジタル感のあるランドスケープデザインとする。



●新しさと軽快さを感じさせるデザイン

- ・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は新しさと軽快感があるシンプルで直線的なデザインとする。
- ・光源は、夜遅くまで研究開発に勤しむ人々に対しても、安心感を与えることができる色温度の低い暖かみのあるものを用いる。



目指すべき土地利用： 住宅主体の複合的土地利用

空間構成の考え方

- 都市的居住空間の整備と、その足元に広がるヒューマンスケールな空間の形成
- 武蔵小杉駅南口と武蔵小杉駅横須賀線口の2つの交流の核を繋ぐうおいとゆとりのある歩行者軸の創出
- 周辺街区と連絡する通り抜け通路やオープンスペースの確保

デザインの考え方

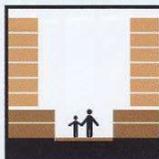
デザインのキーワード

<暖かみと安らぎのある街並み>

一 暖かみ・安らぎ・落ち着き 一

『暮らしの軸』にかかるゾーンは、都市型住宅としての良好な住環境に求められる「暖かみ」、「安らぎ」及び「落ち着き」を想起させるデザインを施し、地域の人々のふれあいを誘発する<暖かみと安らぎのある街並み>をつくる。

建築デザイン



● 風格と暖かみが感じられるデザイン

- ・高層部は高明度かつ低彩度又は暖色系のアースカラーの素材を中心に用い、風格が感じられるデザインとする。
- ・低層部は深みのある暖色系のアースカラーの色彩を基調とし、石、木材等の自然の風合いを感じさせる素材を効果的に用いて、落ち着きと暖かみのある景観を創出する。

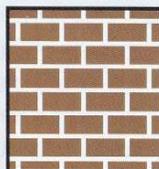
● 高層部と低層部を切り分けたデザイン

- ・高層部と低層部のデザインを切り分け、メリハリのある建築物デザインとする。
- ・高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した風格あるデザインとする。
- ・低層部は、ファサードに変化を持たせるなど、ヒューマンスケールな設えとするとともに、商業業務施設等では開口部を大きく設けるなど、内部の活動を感じることのできるデザインとなるように配慮する。



グランドデザイン

舗装

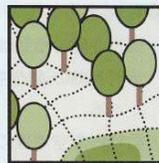


● 暖かみのあるアースカラーを基調としたデザイン

- ・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、原則として、やさしさや落ち着きを演出する暖色系のアースカラーを基調とした自然の風合いを感じさせる舗装材を用いる。



植栽

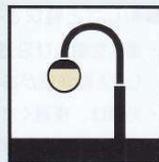


● 自然な森のデザイン

- ・通り空間に面した空地等には、積極的に植栽を施し、街路樹と合わせて潤いのある街路景観を創出する。
- ・敷地内の空地等については、多様な樹種をランダムに配植し、自然な森のようなナチュラル感のあるデザインとする。

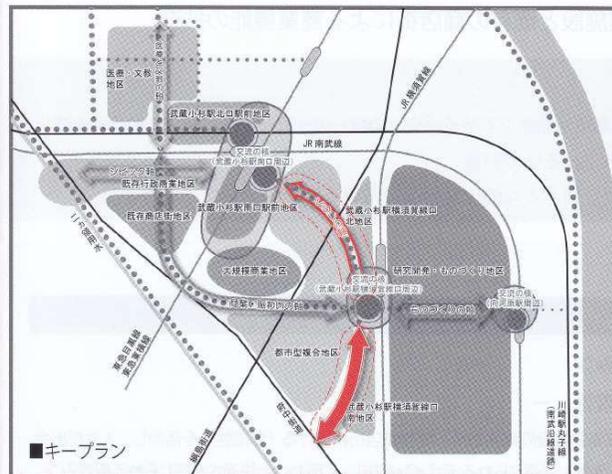


照明



● 落ち着きとやさしさを感じられるデザイン

- ・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、居住空間として、夜間の落ち着きとやすらぎを演出するために、照明は丸みを帯びた優しく親しみやすいデザインとする。
- ・光源は、夜遅く帰宅する人々に対しても、安心感を与えることのできる色温度の低い暖かみのあるものを用いる。



【関連する交流の核及び地区】

- ・交流の核（武蔵小杉駅南口周辺） →P17-18
- ・交流の核（武蔵小杉駅横須賀線口周辺） →P17-18
- ・武蔵小杉駅横須賀線口北地区・南地区 →P25-28
- 都市型複合地区
- ・中丸子地区 →P23-24
- ・グランド地区 →P29-32
- ・新丸子東3丁目北部地区 →P43-54
- ・中丸子東部地区 →P43-54
- ・新丸子東3丁目南部地区 →P43-54

目指すべき土地利用： 大規模商業施設と既存の商店街による商業機能の拡充

空間構成の考え方

- 広域拠点の玄関口にふさわしい賑わいのある都市活動拠点である「交流の核」の一翼を担う集客交流拠点の形成
- 外に開かれた商業空間、アクティビティあふれる街の創造
- 地区住民や来街者を引き込むための歩行者空間と人々の休息の場にもなるオープンスペースの確保

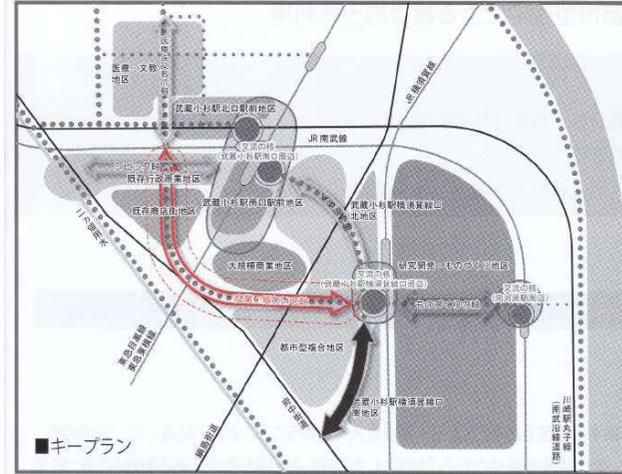
デザインの考え方

デザインのキーワード

<賑わいと快適さが感じられる街並み>

－ 賑わい・アクティビティ・界限性 －

『商業・賑わいの軸』にかかるゾーンは、大規模商業施設の集客力や、既存商店街における「界限性」を活かし、人々が出会うことによる「賑わい」、「アクティビティ」及び「活気」が感じられるデザインを施し、<賑わいと快適さが感じられる街並み>



【関連する交流の核及び地区】

- ・交流の核（武蔵小杉駅桃須賀線口周辺） →P17-18
- ・都市型複合地区
- ・新丸子東3丁目南部地区 →P43-54
- ・小杉町3丁目中央地区 →P43-54

建築デザイン



●個性あるデザイン

- ・それぞれの個性が発揮された魅力的な街並みを形成する。
- ・大規模商業施設については、武蔵小杉の新たな「街のゲート」をイメージさせるテーマ性を持った賑わいを感じさせるデザインとするとともに、歩行者を引き込む開放的な設えのエントランスや、建物内の吹き抜け、通り抜け空間等を工夫する。
- ・人々のコミュニケーションを創出する広場や通り抜けが可能な通路等を設け、賑わいや楽しさを演出する印象的なデザインとするとともに、暖かみのある街並みを演出するため、アースカラーを基調色としつつ、自然石、木材、土等の自然素材の風合いを感じさせる色彩によるデザインとする。

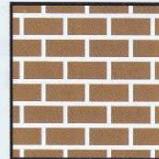
●ヒューマンスケールを演出したデザイン

- ・開口部を大きく設けるなど、内部の活動を感じることでできるデザインとなるように配慮する。
- ・大規模商業施設については、ヒューマンスケールな設えとするとともに、適切な開口部の配置等による表情豊かなファサードとなるよう工夫し、個性と風格ある街並みを形成するデザインとする。

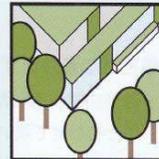


ランドデザイン

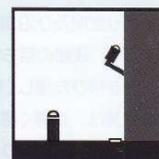
舗装



植栽



照明



●アースカラーを基調とした自然を感じさせるデザイン

- ・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、商業・にぎわいの軸の連続性に配慮し、自然を感じさせる素材とするとともに、アースカラーを基調とする。

●潤いを演出する効果的なデザイン

- ・建築物前面やオープンスペース等で可能な限り緑化等を行うことで、街並みや隣接する敷地との調和に配慮する。
- ・大規模商業施設については、都市的空間のアクセントとして、スケール感を活かした、シンボリックな高木や群としての中・高木など、自然を感じられるようなデザインとするなど、歩行者に木陰を提供するとともに、空間を演出し、駅と住まいを結ぶ心地良い「小径」を提供する。
- ・建築物は、壁面及び階段状のテラス、屋上を活用し、可能な限り緑化する。

●賑わいを演出する暖かみのあるデザイン

- ・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は、暗がりやをなくすよう配慮するとともに、夜の賑わいを演出する暖かみのある光源を用いる。



目指すべき土地利用： 行政、商業、都市型住宅による複合的土地利用

空間構成の考え方

- 多くの人が集い、活発な交流が行われる開かれた街並み空間の創出
- 既存市街地の高度利用化に伴う都市機能の更新
- 高齢者や障がい者をはじめとした誰もが気軽に往来できる歩行者空間の創出

デザインの考え方

デザインのキーワード

<親しみと落ち着きのある街並み>

－ 交流・共生・落ち着き －

「シビック軸」にかかるゾーンは、行政施設が集積する地区であることから、様々な人々が集うことによる「交流」や、沿道の再開発によって形成される多様な用途の建築物が一定の調和を見せながら「共生」した、(親しみと落ち着きのある街並み)をつくる。

建築デザイン



●開放感のある親しみやすいデザイン

・人々が気軽に立ち寄りたくなるような開放感と親近感を演出するため、暖かみのある落ち着いた色彩を基調とするとともに、内部の活動が見えるような開口部を多く設けるなどの工夫をする。

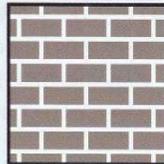
●高層部と低層部を切り分けたデザイン

・低層部は、ヒューマンスケールを感じさせるとともに、開放感あるデザインとする。  
・高層部は、壁面が単調なイメージにならないようフレームなどで変化をつけるとともに、行政の中心地にふさわしい落ち着いたデザインとする。



ランドデザイン

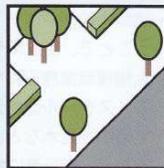
舗装



●落ち着いた色彩を基調としたデザイン

・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、親しみと落ち着きを醸し出す低彩度の暖色系の色彩を基調とした舗装材を用いる。

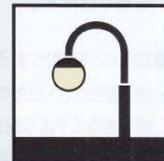
植栽



●四季とうおいを感じさせる緑のデザイン

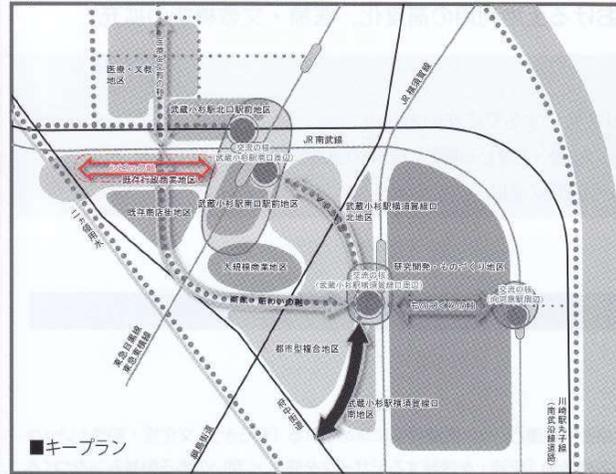
・通り空間の限られたスペースを有効に活用し、多様な交流を生み出す、うるおいや四季を感じさせる緑化空間を創出する。  
・沿道敷地内の空地等は、通りの賑わいを敷地内に引き込むなど、開放感や公共空間との一体性に配慮しつつ、緑視効果が得られる設えとする。

照明



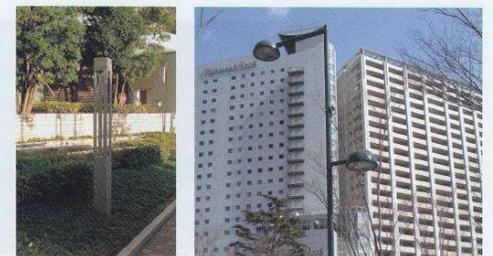
●落ち着きと品格が感じられるデザイン

・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は、落ち着きと品格が感じられるシンプルで優しく親しみやすいデザインとし、光源は、色温度の低い暖かみのあるものを用いる。



【関連する交流の核及び地区】

- ・交流の核（武蔵小杉駅南口周辺） →P17-18
- ・既存行政商業地区
- ・小杉町3丁目中央地区 →P43-54
- ・小杉町3丁目東地区



目指すべき土地利用： 既成市街地における土地利用の高度化、医療・文教機能の拡充

空間構成の考え方

- 医療・文教・住宅の各機能の相互の繋がりを強化する交流空間の創出
- 北口駅前の活気あるまちから、緑豊かな等々力緑地へと繋がる賑わいと緑の連携軸の創出
- 利用者にやすらぎを感じさせる潤いと憩いの空間の創出

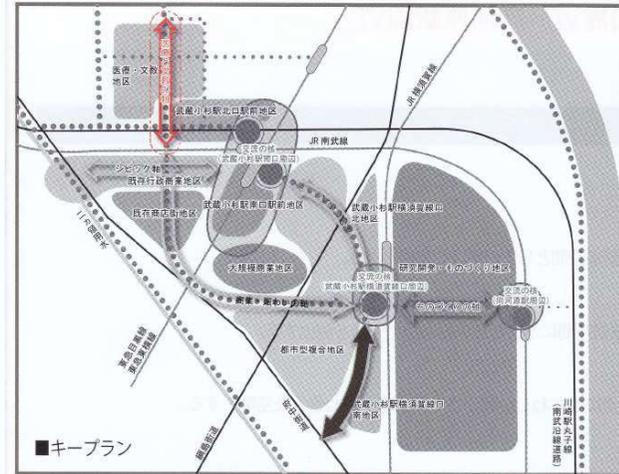
デザインの考え方

デザインのキーワード

<潤いのある街並み>

— 安らぎ・洗練・交流 —

『医療と文教の軸』にかかるゾーンは、治療・療養・健康といった医療機能に求められる「安らぎ」、文化性・知性といった文教機能の持つ「洗練」さ、医療・文教・住宅の各機能の「交流」を誘発するデザインを施し、<潤いのある街並み>をつくる。



建築デザイン

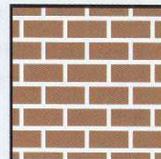


- 洗練さと暖かさを演出する多様性のあるデザイン
  - ・高層部は明るく暖かみのある素材を用い、洗練されたデザインとする。
  - ・低層部は深みと安らぎを感じさせる暖色系のアースカラーの素材を中心に用い、様々な交流を誘発する変化に富んだデザインを施す。
- 高層部と低層部を切り分けたデザイン
  - ・建築物の高層部と低層部のデザインを切り分け、メリハリのある建築物デザインとする。
  - ・高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した洗練されたデザインとする。
  - ・低層部は、界隈性と周辺の街並みとの連続性に特に配慮し、壁面のデザインの分節化を図るなど、ヒューマンスケールな設えとするとともに、内部の活動が見えるような開口部を多く設けるなど、賑わいを創出し、交流の促進を図るデザインとする。



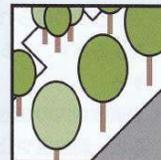
ランドデザイン

舗装



- 暖かみのあるアースカラーを基調としたナチュラルなデザイン
  - ・通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、安らぎや癒しを演出する暖色系のアースカラーを基調とした自然の風合いを感じさせる舗装材を用いる。
  - ・様々な人々が利用可能な広場等を通りに面して設け、そのアクティビティが通りにしみ出し、街の賑わいと人々の交流を促すような工夫を行う。

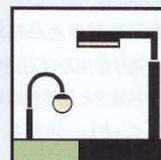
植栽



- 変化に富んだ緑のデザイン
  - ・通り空間の植栽は幾何学的な配置とし、等々力緑地へと繋がる緑の軸の連続性を強調し、沿道景観としての一体感を持たせる。
  - ・沿道敷地内の空地等は、多様性のある森のデザインとすることで、賑わいを演出する緑の潤いと憩いの空間を創出する。



照明



- 洗練さと安らぎが感じられるデザイン
  - ・通り空間の照明は洗練さが感じられるシンプルで直線的なデザインとする。
  - ・沿道敷地内の空地等の照明は、優しく親しみやすいデザインとするとともに、フットライトやアッパーライト、ファニチャーに内蔵した照明などを用いて、交流を促す変化に富んだデザインとする。
  - ・光源は、人々に安らぎを与える色温度の低い暖かみのあるものを用いる。



交流の核（武蔵小杉駅横須賀線口周辺・向河原駅周辺）

デザインの考え方

デザインのキーワード

■武蔵小杉駅横須賀線口周辺

一体感と都会性

駅前広場に面する街区の一体感及び新しい駅前空間としての都会性を創出する。

交流と賑わい

交通結節性の向上によって交流を促進し、駅前空間にふさわしい賑わいと交流を創出する。

暖かさと端正さ

「くらしの軸」と「ものづくりの軸」の結節点にふさわしい暖かさと端正さを兼ね備えた空間とする。

■向河原駅周辺

一体感と都会性

新しい駅前広場周辺にふさわしい一体感と都会性を創出する。

開放感とダイナミックさ

先端研究開発をイメージさせる開放的でダイナミックな景観を創出する。

洗練さと端正さ

都市の顔、「ものづくりの軸」を受け止める場所にふさわしい洗練さと端正さが感じられる空間を創出する。



※建築デザイン、ランドデザインの考え方については、「研究開発・ものづくり地区」(P21-22)又は、「武蔵小杉駅横須賀線口北地区・南地区」(P25-28)を参照。

駅前広場のデザイン

●洗練された都会的な附帯施設等のデザイン

バスシェルターや駐輪場、ストリートファニチャー等の附帯施設は、都市の顔にふさわしく、都会的で軽快さを感じさせるよう金属やガラス等の素材を中心に、シンプルで洗練されたデザインとする。

●「ものづくりの軸」との連続性に配慮したモノトーンを基調とする舗装デザイン

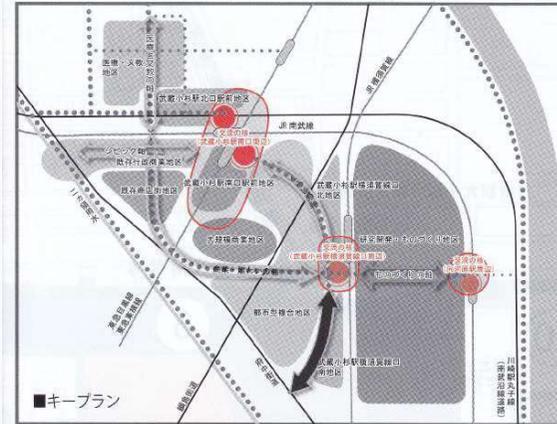
都市の顔としての象徴性を演出し、「ものづくりの軸」との連続性に配慮したモノトーンを基調とした舗装材を用いる。

●開放感のある緑化デザイン

街の玄関口の潤いの演出のために積極的に緑化を推進しつつ、開放感を確保したデザインとする。

●都会性と安らぎを演出する照明デザイン

照明は都会性を演出するシンプルで直線的なデザインとし、色彩はダークグレー等、駅前広場の附帯施設との調和に配慮する。光源は、夜遅くまで研究開発に勤しむ人々等にも、安心感を与えることのできる色温度の低い暖かみのあるものを用いる。



交流の核（武蔵小杉駅南口周辺）

デザインの考え方

デザインのキーワード

一体感と象徴性

・東急線武蔵小杉駅周辺の一体感及び街の玄関口としての象徴性を創出する。

賑わいと楽しさ

・周辺の商業施設を中心とした、駅前空間としての賑わいと楽しさを創出する。

洗練さと暖かさ

・都市の顔、「くらしの軸」を受け止める場所にふさわしい洗練さと暖かさを兼ね備えた空間とする。

※建築デザイン、ランドデザインの考え方については、「武蔵小杉駅南口駅前地区」(P33-42)を参照。

駅前広場のデザイン

●洗練された都会的な附帯施設等のデザイン

・バスシェルターや地下駐輪場出入口、ストリートファニチャー等の附帯施設は、都市の顔にふさわしく、都会的で軽快さを感じさせるよう金属やガラス等の素材を中心に、シンプルで洗練されたデザインとする。

●モノトーンを基調とした象徴性を演出する舗装デザイン

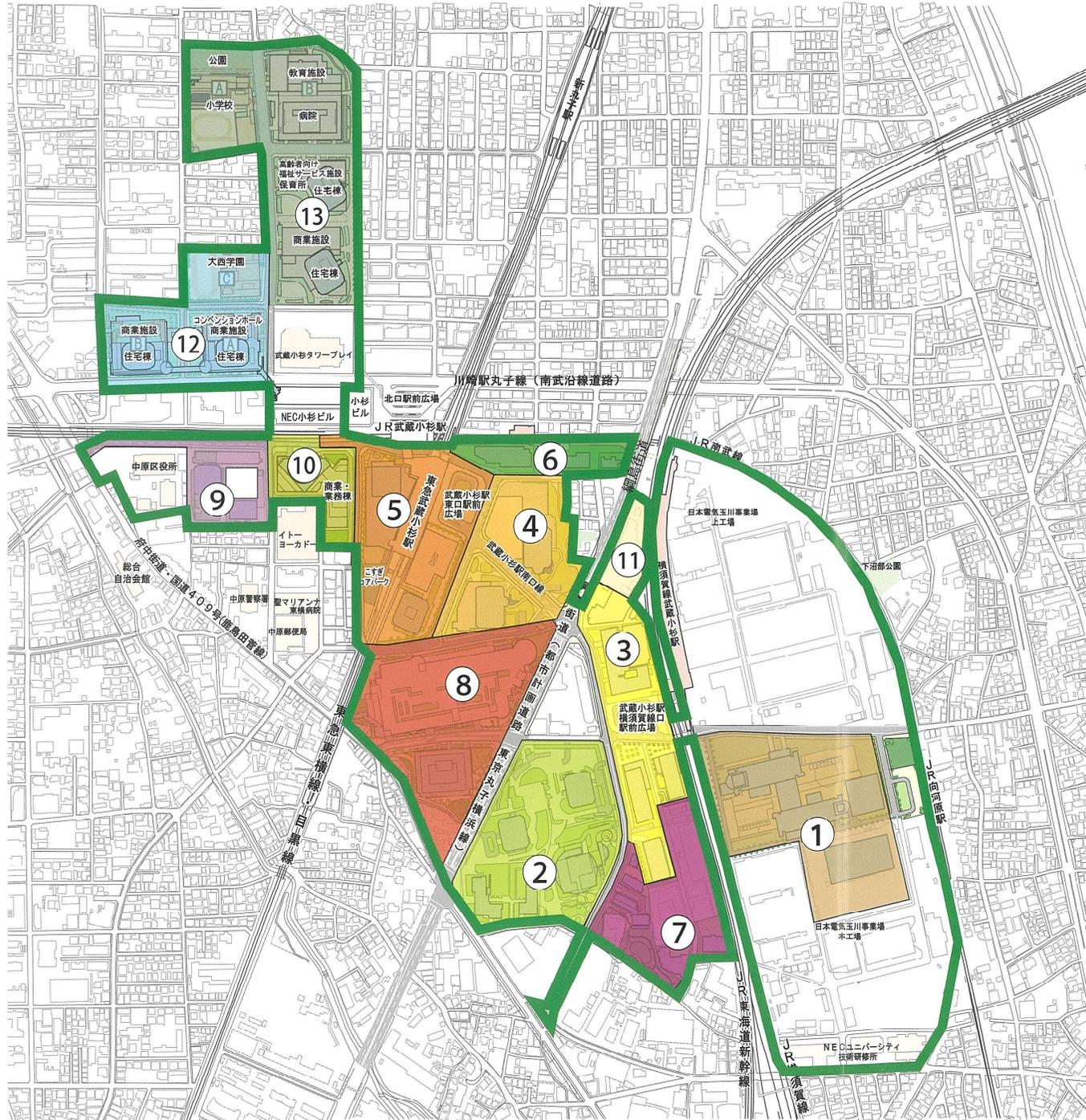
・都市の顔としての象徴性を演出するモノトーンを基調とした舗装材を用いる。  
・出入口交差点歩道部は、駅前広場と舗装材を統一し、駅前広場の広がりを感じられるデザインとする。

●開放感のある緑化デザイン

・街の玄関口の潤いの演出のために積極的に緑化を推進しつつ、開放感を確保したデザインとする。

●都会性と安らぎを演出する照明デザイン

・照明は都会性を演出するシンプルで直線的なデザインとし、色彩はダークグレー等、駅前広場の附帯施設との調和に配慮する。  
・照明の光源は、「くらしの軸」との連続性を考慮し、安心感を与えることのできる色温度の低い暖かみのあるものを用いる。



(凡例)

- 武蔵小杉周辺景観計画特定地区
- 1 研究開発・ものづくり地区
- 2 中丸子地区
- 3 武蔵小杉駅横須賀線口駅前地区
- 4 グランド地区
- 5 武蔵小杉駅南口駅前地区
- 6 新丸子東3丁目北部地区
- 7 中丸子東部地区
- 8 新丸子東3丁目南部地区
- 9 小杉町3丁目中央地区
- 10 小杉町3丁目東地区
- 11 武蔵小杉駅横須賀線口北地区
- 12 小杉町2丁目地区
- 13 小杉町1・2丁目地区